

平成 18 年度 大学院入学者選抜試験問題 (第 1 次)

専門科目

経済理論・経営理論分野

以下の問 1 と問 2 から 1 問を選んで解答しなさい。

問 1 (経済理論) 以下の (1)、(2) の問に答えなさい。

- (1) 消費者主権とは何かを述べ、消費者主権を否定する現実の例を挙げ、消費者主権の不成立がミクロ経済理論にとってもつ意味を述べなさい。
- (2) 下の表は、2003 年の日本の国内総生産と国内総支出を表している。民間消費が可処分所得ではなく国内総生産の関数であり、平均消費性向が限界消費性向と一致しているとすれば、投資乗数はいくらになるかについて、この表の数値を基にして論じなさい。

(単位:兆円)

国内総生産 (付加価値)		国内総支出	
雇用者報酬	265	民間最終消費支出	283
営業余剰・混合所得	91	政府最終消費支出	88
固定資本減耗	101	総固定資本形成	119
生産・輸入品に課される税	41	在庫品増加	-0
(控除) 補助金	4	輸出	59
統計上の不突合	3	(控除) 輸入	51
合計	497	合計	497

問 2 (経営理論) 経済学において市場概念は非常に基礎的で、重要な概念である。それは、一般に自由主義に基づく市場調整機構を市場経済と呼び慣わしていることにもあらわれている。一方、マーケティングや経営学においても、市場は大事な概念である。だが、そこには顧客や顧客志向という概念も、つかず離れずで存在しているようである。

このようなことを踏まえて、市場に対する経済学のとらえ方と経営学(ここではマーケティングを含む)のとらえ方には違いがあるのか、ないのか。そして、もし両者の間に違いがあるとするなら、それはどのようなことか。また、そうした違いは、経済学と経営学の物事のとらえ方にどのような影響を与えるのか。これらに関して、自らの考えを述べよ。